

令和7年6月6日

滝沢市議会議長 角掛 邦彦 様

滝沢市議会議員 藤原 治

政務活動（調査研究・研修・要請陳情等）実施報告書

滝沢市議会の政務活動費の交付に関する条例第9条に規定する使途基準に基づき、政務活動（調査研究・研修・要請陳情等）を実施したので、報告します。

記

1 期日

令和7年5月15日（木）から 令和7年5月16日（金）まで

2 活動場所

明治大学アカデミーコモン棟3階 アカデミーホール
東京都千代田区神田駿河台1-1

3 活動内容

別紙のとおり

政務活動シート

調査主体：藤原 治

調査項目名称	調査研究(視察含む)—— 研修 —— 要請陳情等
活動の理由及びその目的	「日本自治創造学会 研究大会」は、専門的分野で活動をしている多くの講師で構成されていることから、多岐に渡る非常に有意義な研修と捉えている。 今回の中で特に注目しているのは「地方自治のあり方を問う」金井 東京大学大学院教授の講演で、今後の議会活動に活かしていくために参加した。
活動概要	●実施日 令和7年5月15日～令和7年5月16日 ●場 所 明治大学アカデミーコモン棟(東京都千代田区神田駿河台1-1) ●内 容 第17回 2025年度 日本自治創造学会 研究大会 「変容する社会・地方選挙」～地方自治のあり方を問う～
活動成果	講演1 「地方自治における政治の復権」(初日 13:10～14:00) 講師:後 房雄(名古屋大学名誉教授) 【印象に残った内容及びキーワード等】 (1)戦後の自治体の遍歴 5段階の特徴、①保守系無所属多数派、②革新自治体の時代、③共産党以外の相乗り体制の時代(現代も)、④「改革派首長」の時代、⑤ポピュリズム首長の時代の中で、最後のポピュリズム首長と言われた大阪の橋下徹氏、名古屋の河村たかし氏の2人が印象に残っている。ここでいうポピュリズム首長とは、地方議会や行政機構の既存権益を批判し、民衆からの圧倒的支持を受けて誕生した首長のことと捉えている。 当時、議会や行政側と対立し、多くのマスコミに取り上げられていた印象があった。 (2)地方自治における政治の欠如の事例 行政評価(事務事業評価)を実施しているが、行っているだけで効果がない。儀式化、空洞化になっていること、相乗り体制による首長選挙の空洞化と現状に厳しい認識を持っていた。 (3)二元代表制の原理的矛盾 ・議会中心性が国際的スタンダード。日本の二元代表制は例外。 ・議会及び議員の役割の希薄化(予算提案権の欠如) (4)自治体議院内閣制の提案 ・政党政治化した都市部の自治体では議院内閣制が望ましい。 ・中核都市でもそれが望ましい。
	講演2 「日本の統治構造～官僚内閣制は議院内閣制になったのか～」 (初日 14:15～15:05) 講師:飯尾 潤(政策研究大学院大学教授) 【印象に残った内容及びキーワード等】 歴代政権の民主党政権、安倍政権、菅政権、岸田政権、石破政権下それぞれにおける官邸主導なのか、官僚主導なのかの解説、裏話に興味を沸かす講演であった。 本来、議院内閣制であるが、従来の官僚主導型から徐々に官邸主導型になってきてはいるものの、官僚のやる気もそがれている実態、永田町の役人のモチベーション(自分たちが国を動かしているという自負)も大事であるが、大臣は、大臣になるだけが目的ではなく、何を日本のために行うのかという政治家の心構えと実行力が少ないとのこと。

講演3 「～JICAにおける地方創生2.0・地域活性化事業への挑戦～
地域との連携による様々な創生事業の実践と活用方法について」
(初日 15:35～16:25)

講師:井倉 義伸(独立行政法人国際協力機構理事長特別補佐)

【印象に残った内容及びキーワード等】

JICA海外協力隊は、自治体にとって遠い存在で「地域おこし協力隊」の方が有名であるだろうと話していたが、国際協力隊も「地方自治体が実施する草の根技術協力事例」があることを初めて知った。それは、人口減少の日本において外国人の労働力・人材受け入れという今後の多様な課題の一つの解決策につながる活動という面を理解できた。

また、詳細は確認していないが、本県の自治体(釜石、遠野、陸前高田の各市)において連携協定/覚書を締結している自治体もあることがわかった。今後、内容等を研究してみようと思う。

講演4 「地方自治のあり方を問う～地方自治の危機～」 (初日 16:40～17:30)

講師:金井 利之(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

【印象に残った内容及びキーワード等】

2024年の地方自治法改正では、「大規模災害・感染症・武力攻撃事態等」の非常時(非平時)における国と地方の役割分担の明確化が図られたが、疑問を呈していた。その中核となるのが「補充的指示制度」の創設であり、当時、いろいろと話題となった改正に対する講演であった。

補充的指示制度とは、国が地方公共団体に対し、特定の非常時において必要最小限の範囲で指示を出せるという制度で、地方自治体の「自主性を尊重しつつ」合意形成なしに一方的に指示が出せることで、地方自治体の現場事情や実態に即さない国の指示が出される恐れや自治体側の裁量や創意工夫が削られる可能性がある」とされた。

コロナ禍での学校閉鎖など、一方的な国の指示があり、本市も全校休校となった。後から全国的にそれに従わない自治体があったとして驚いた記憶があるが、首長の判断や地方議会としての判断など、難しい課題であると考えます。

活動成果

講演5「AI時代の双方向コミュニケーション選挙戦略～都知事選の経験から学ぶ」
(2日目 10:00～10:45)

講師:安野 貴博(AIエンジニア・起業家・SF作家)

【印象に残った内容及びキーワード等】

講師は、2024年東京都知事選に立候補し、15万票を獲得し、5位。AIを活用した双方向型のコミュニケーション(ブロードリスニング)をつくり上げたり、manifestoが大反響を呼び、安野貴博と「チーム安野」は第19回manifesto大賞グランプリを受賞した。

また、2024年11月より東京都のデジタル化を推進する一般財団法人GovTech東京のアドバイザーに就任し、政策策定にも関わり、デジタルを通じた社会システム変革に携わっていた。

本議会でもワークショップ形式でポストイットに書かれた意見は、手作業等で集約を行っていたが、数千、数万の意見でもAIを活用し、KI法的な手法でグループ化する技術は、今後の市民の意見を集約することに役立つものと考えられた。

講演6 「ネット選挙に対応する～公職選挙法の改正とその行方～」

(2日目 11:00～11:45)

講師:安野 修右(日本大学法学部准教授)

【印象に残った内容及びキーワード等】

兵庫県知事選、東京都知事選などを受けたインターネット選挙、ポスター掲示等々の問題化した選挙制度に関しては、国の制度改革を見守るしかないと考えます。

講演7「領域を超えない民主主義～地方政治における競争と民意～」
 (2日目 13:00～13:45)
 講師:砂原 庸介(神戸大学大学院法学研究科教授)

【印象に残った内容及びキーワード等】

(1)自治体の領域と都市圏のズレ

- ・サービスの負担者と受益者が必ずしも重ならない
- ・「政府」が「都市」にとって必要な決定を行うとは限らない
- ・政党やビジネスが地方政府間の橋渡しをするべき

(2)連携を阻む政治制度

- ・「分裂した意志決定」を発生させる地方政府内、地方政府間での決定の競合
- ・二元代表制:個別利益志向で近視眼的
 - 長:単純小選挙区制で地域全体の問題へ関心を持つ傾向
 - 議員:大選挙区制で狭い領域の個別利益への関心が強い
- ・国と地方の関係
 - 基本的に集権的:自治体にとっては周辺より国との関係が重要
 - 特に補助金の問題:周辺の地方政府と競争して補助金を獲得

(3)今後の制度構想

- ・求められる連携
 - 従来の連携プラス大都市というより地方中核市/周辺を「助ける」
- ・具体的な制度改革
 - 地方議会の選挙制度改革:地方レベルでの政党の強化/(非拘束)比例が現実的

活動成果

講演8「高齢社会における大災害への対応と課題」
 (2日目 14:00～14:45)
 講師:浅野 大介(石川県副知事)

【印象に残った内容及びキーワード等】

- ・二重災害、能登半島地震と奥能登豪雨災害における「広域避難」と「1.5次避難」の難しさ、苦悩が痛感できた
- ・被災者支援に必要な「情報収集・共有」の取り組みの重要さと難しさがわかった
- ・国からの支援、助成金などの制度設計が期間等も含めて不十分と思われた

【総括】

2日間の講演の考察の前に、大会の挨拶をされた本学会の理事長、穂坂邦夫氏の大会資料に掲載された7ページに及ぶ「特集:失われた30年を取り戻すため」を拝見し、今回の学会研究大会のテーマ「地方自治の在り方を問う」をつくづく考えさせられた。

理事長(県職員、町職員を経て、市議会議員経験も含め市議会議員を4期、県議会議員を含め県議会議員を5期)は、市長も1期の経験を有する方で、その経験を基に発信される言葉の重さを感じた。

それは、「首長の限界を実感した」、「議会は前例を踏襲する安易な運営を続けてる」、「補助金は、地方自治の自己責任を著しく消失する大きな要因」、「地方分権を超えた水平的関係の構築」、「地方の自立と行政システムの改革を阻止している最大の原因は中央集権制度を継続しようとしている基本姿勢」、「公務員の仕事は今も将来も常に正しいとする慣習」等と述べている点である。

講演では「講演1:地方自治における政治の復権」、「講演2:日本の統治構造～官僚内閣制は議院内閣制になったのか～」、「講演4:地方自治のあり方を問う～地方自治の危機～」、「講演7:領域を超えない民主主義～地方政治における競争と民意～」に共通した、地方自治、首長、地方議会の有り方について、これまでモヤモヤしていた疑問の根幹を考えさせられる内容であった。

その中心的キーワードは①「二元代表制の原理的矛盾」と、これまで考えたこともなかった②「議院内閣制が国際的スタンダード」であった。加えて、現在、本市でも行っている③「議会改革」である。

活動成果

①と②に関して、小さな地方都市では難しいこととは思いつつ、大都市や中核都市では、議院内閣制が理想だという政治学者の理論は、確かにもっともだと考えることができた。そのためには、政党がしっかりすることであり、このためには、憲法改正の必要はないが、地方自治法の改正も視野に入れるべきとの考えもあり、ハードルとしてはかなり高いと感じた。

本市のような地方自治体でも、私のような無所属議員は少数派で、政党色を前面に出している3会派の8人、プラス2会派8人は、政党色系は明らかである。

何故、二元代表制が国際的に主流ではないのか?の疑問は、「車の両輪」とはいうものの、あまりにも議会は首長に比べ弱いとのこと。一つには予算提案権が無いことにあると識者は考えている。3期目を迎えた私自身もそう思う。議決権はあるというものの、それを乱発したら行政は回らないことは明らかである。議会基本条例、議会改革、マニフェスト等々進めてはいるが、やっている感のみで、効果はどうかと識者はいう。自分もそう感じて面もある。③の「議会改革の有効性」にも繋がる。カリスマ的首長(橋下市長・府知事、河村市長、小池都知事等)が誕生した当時の議会又は自治体内部との軋轢がそれを物語っていると今は感じる。その解決のために政党政治のもと議会多数派と首長のネジレを解消すること。根本的には、自治法の改正により都市の規模等、議員の数や議員の覚悟のもと、選択制でも良いから二元代表制の在り方を変える必要があると唱えている学識者が多いのだと今回知った。

そうはいつても、中核市以下の小さな地方都市・財政力も強くない自治体の議会として、議員として、今何ができるのかじっくりと検討していくべきと痛烈に考えさせられた研究大会であった。

研修行程表

第17回 2025年度 日本自治創造学会 研究大会

【日 時】

1泊2日（5月15日（木）～5月16日（金））

初日（5/15）

盛岡駅発（はやぶさ12号）	9：50
東京駅着	12：08
東京駅～御茶ノ水駅（中央線）	12：20
御茶ノ水駅から徒歩にて会場へ	12：30
会場 明治大学アカデミーコモン棟3階	アカデミーホール
東京都千代田区神田駿河台1-1	
研修初日	13：00～17：45

宿泊先 都内（政務活動費の使用無し）

2日目（5/16）

研修会場着	9：00～ 9：40（自費）
研修2日目	10：00～15：05

ホテル発東京駅へ移動（中央線御茶ノ水駅～東京駅）

東京駅発（はやぶさ33号）	16：20
---------------	-------

盛岡駅着	18：33
------	-------

帰 宅

令和7年8月27日

滝沢市議会議長 角掛 邦彦 様

滝沢市議会議員 藤原 治

政務活動（~~調査研究~~・~~研修~~・~~要請陳情等~~）実施報告書

滝沢市議会の政務活動費の交付に関する条例第9条に規定する使途基準に基づき、政務活動（~~調査研究~~・~~研修~~・~~要請陳情等~~）を実施したので、報告します。

記

1 期日

令和7年8月2日（土）

2 活動場所

リファレンス西新宿大京ビル2階
東京都新宿区西新宿7丁目21-3

3 活動内容

地方議員研究会 決算質疑特別研修
別紙のとおり

政務活動シート

調査主体：藤原 治

調査項目名称	調査研究(視察含む) ・ 研修 ・ 要請陳情等
活動の理由及びその目的	<p>私はこれまで個人的に予算決算の質疑の重要性を意識し、積極的に質疑してきたが、公務員の経験を活かしながらも財政部局に携わったことが無く、議員必携などから独自にその質疑を行ってきた。そのため、これまでの質疑内容で良いのかと疑問を持ち続けており、今年2月に予算質疑に関する研修を初めて受講し、とても参考になった。</p> <p>そこで今回は是非、決算質疑に特化した講座を受け、9月会議（決算議会）に望むべきと考え研修を受けることにした。</p>
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ●実施日 令和7年8月2日（土） ●場 所 リファレンス西新宿大京ビル 2階 東京都新宿区西新宿7丁目21-3 ●内 容 地方議員研究会 決算質疑特別研修
	<p>講師 元枚方市議会議長 木村 亮太</p> <p>予算質疑特別講座①（10:00～12:30）</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <p>(1)そもそも決算質疑の目的は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の事業内容を確認し、予算の使い方が適切だったかどうかを判断し、認定するかしないかを決め、効果を明らかにし、次年度以降に反映させること <p>(2)何のために質問するのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実確認だけではなく政策提言となるような質問を <p>(3)決算質疑の一つの流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①【目的】その事業で何をを目指しているのか ②【目標】事業の目標に対して実績は何か、適切な目標となっているか、実績は達成しているか ③【理由】何故その実績なのか、未達成の場合、原因分析ができているか ④【今後の取組】継続すべきか、予算を拡充すべきか、縮小すべきか、やり方を変えるべきか <p>(4)質疑の着眼点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの目標と実績の乖離 ・本来、増加か減少していくべきもの ・実績が増加又は減少しているが、対応できていないもの ・目的と事業内容（手段）の整合性 <p>(5)質疑を作るまでの流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 数字を確認して職員にヒアリングしていく <ul style="list-style-type: none"> ・早めに職員に投げかける ・職員が把握しているか、問題意識があるのか ・「決算で取り上げる、質疑する」と明確に伝えておく 大きな方針/約束させる/決意を求める（意味ない） ② 次につながる答弁を求める <ul style="list-style-type: none"> ・「すぐやります」「変えます」との答弁にはなかなかならないことを前提 ⇒何度も取り上げる、今後の推移も見てもらえるのか、考えてもらえるのか、他市の例も参考にしてもらえるのか等々引き出す

活動成果

(6)質問を実現させるために

- ・そもそも問題と認識してもらうために
⇒職員にも問題意識を聞き、自分の問題意識も伝える
- ・お金がない、予算がない場合
⇒国県の補助金動向や通知等、近隣他市等をチェックする

(7)噛み合う質問とするために必要なこと

(漠然とした質問だと漠然とした答弁になる)

- ・5W1Hを意識して、事前準備をし決算質疑に臨むべき
- ・手段なのか目的なのか？⇒課題とあるべき姿を議論しよう

(8)政策評価、総合戦略から質疑を作ろう

- ・政策評価とは総合計画で立てた目標に対して実績がどうかを評価したもの

(9)人口推計について

- ・所属自治体の人口ビジョンや社人研の推計を確認する

(10)まち・ひと・しごと創生総合戦略と人口ビジョン

- ・自然増減の推移より人口減少の原因を読み解く

(11)事務事業評価を活用しよう

- ・事務事業評価のチェックポイント
⇒①目的に即した指標設定になっているか
②毎年目標達成しているかどうか、増加傾向か減少傾向か、予算との関係は
③今後の方向性は、達成率が低いのに現状のまま継続とされていないか

予算質疑特別講座② (13:30～16:00)

【印象に残ったキーワード等】

(1)決算の前に確認しておくべき資料

- ①決算審査意見書
⇒総括意見には、様々な問題点、課題等が記載されている
例：行財政改革プランをチェック、プランが遂行されているか確認し質問
- ②財政状況資料（+決算カード）
⇒毎年、総務省で取りまとめている「自治体名+財政状況資料」
「目的別歳出決算分別表（住民一人当たりのコスト）」チェック例
類似団体との比較：消防費、教育費、交際費などの比較は参考になる
- ③人事行政の運営等の状況の公表
⇒職員の給料はそもそも条例で決まっている（議会が関わっている）
慎重に質疑すべき

(2)質疑の事例紹介

- ①住宅耐震化事業：このままのペースでは完了することがない
 - ・事業内容、問題点を事前調査
 - ・質疑内容：事業の目的と概要を聞く、目標と実績の推移を聞く、未達成理由を聞く、補助金の詳細、周知方法の内容を聞く
 - ・質疑後の効果：予算額が増額され、年間の補助対象件数が増えた
- ②福祉移送サービス：利用者が減り続けているため、配車の方法について代替案を提案
 - ・質疑内容：事業の目的と概要を聞く、目標と実績の推移を聞く、委託料が一定のため、1件当たりの配車コストが高くなっていることの見解を伺う、配車アプリの導入の見解を伺う
 - ・質疑後の効果：未

- ③不登校支援:対象者が増えているにもかかわらず、予算を絞ってきた件
- ・質疑内容:事業の目的と概要を聞く、不登校支援員と配置人員を聞く、不登校支援員の効果を聞く、不登校率が上がっているのに支援員が減っている理由を聞く
 - ・質疑後の効果:その後不登校支援協力員を全ての中学校に配備(支援員不足の質疑をしたが、結果として協力員という形で配備されたと推測される)

【所感等】

今年2月に予算質疑に関する特別講座を受講したが、今回は決算質疑に特化した特別講座を初めて受講した。これまでの自己流の審査質疑に、限界を感じていたので非常に参考になった。

講師の木村亮太氏は、市議会議員を経験し、当選からの経緯が自分と類似した点もあったが、年齢的にかなり若く、自分を超越する実績から信頼できる講師と考え受講したが、期待通りであった。

これまで「自分なりに単なる決算額の数字だけではなく、成果を問いただしてきたつもりだったが、最近では、徹底していない」と反省できた。

また、確認すべき資料「決算審査意見書」、「財政状況資料+類似団体との比較」等は、これまでも参考にしてきた年度もあったが、毎年すべきものと確信が持てたのが良かった。

さらには「漠然とした質問だと漠然とした答弁になる」点と決算質疑の一つの流れとして「①【目的】その事業で何を狙っているのか ②【目標】事業の目標に対して実績は何か、適切な目標となっているか、実績は達成しているか ③【理由】何故その実績なのか、未達成の場合、原因分析ができていないか ④【今後の取組】継続すべきか、予算を拡充すべきか、縮小すべきか、やり方を変えるべきか」が一つの指針として改めて重要と再認識させられた。

加えて、本研修内容の一部を、全議員への参考資料として、事務局として採用してくれたことが自分及び市議会の良い質疑につながることを期待したい。

研修行程表

決算質疑特別研修

【日 時】

1泊2日 令和7年8月1日（金）～8月2日（土）

【会 場】

リファレンス西新宿大京ビル2階
東京都新宿区西新宿7丁目21-3

初日（8/1）

盛岡駅発（はやぶさ60号）	16：17
東京駅着	18：32
宿泊先 都内（政務活動費使用無し）	※前泊

2日目（8/2）

研修会場着（政務活動費使用無し）	9：40
特別講座①	10：00～12：30
特別講座②	13：30～16：00

会場から発東京駅へ移動（政務活動費使用無し）

東京駅発（はやぶさ35号）	17：20
---------------	-------

盛岡駅着	19：33
------	-------

帰 宅

令和 8 年 2 月 2 日

滝沢市議会議長 角掛 邦彦 様

滝沢市議会 藤原 治

政務活動（~~調査研究~~・~~研修~~・~~要請陳情等~~）実施報告書

滝沢市議会の政務活動費の交付に関する条例第 9 条に規定する使途基準に基づき、政務活動（~~調査研究~~・~~研修~~・~~要請陳情等~~）を実施したので、報告します。

記

1 期日

令和 8 年 1 月 2 4 日（土）

2 活動場所

リファレンス西新宿大京ビル 2 階
東京都新宿区西新宿 7 丁目 2 1 - 3

3 活動内容

地方議員研究会 予算質疑特別研修（生成 A I を活用した予算審議について）
別紙のとおり

政務活動シート

調査主体: 藤原 治

調査項目名称	調査研究(視察含む) ・ 研修 ・ 一要請陳情等
活動の理由 及び その目的	<p>私はこれまで常任委員会での所管事務調査や一般質問などで、多少、生成AIを活用してきたが、予算決算の質疑においてはほとんど活用してこなかった。それは、実行計画書や予算書のデータが多く、難しいと思っていたからである。</p> <p>今回は、予算質疑で生成AIを活用し、どのように予算質疑を行うべきかと考え、これに特化した講座を受け、3月会議(予算審査)に望むべきと考え研修を受けることにした。</p>
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ●実施日 令和8年1月24日(土) ●場 所 リファレンス西新宿大京ビル 2階 東京都新宿区西新宿7丁目21-3 ●内 容 地方議員研究会 予算質疑特別研修
	<p>講師 元枚方市議会議長 木村 亮太</p> <p>生成AIを活用した予算審議について 基本編 (10:00~12:30)</p> <p>【印象に残ったキーワード等】</p> <p>(1)生成AIの基本について 《生成AIを活用してできること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「壁打ち」という表現が多く使われたこと⇒やり取りして深めていくこと ・chatGPT以外のGoogleのGeminiとNotebookLM⇒それぞれ優れている部分がある ・無料プランと有料版の違い⇒大きなファイル、より多くのファイルにより解析可能 ・生成AIの回答の正当性は自分で確認すること⇒回答はハルシネーション(もっともらしい嘘)が混ざっている可能性があり、「情報源を教えて」「その情報が記載されているURLを教えて」と確認が必要 <p>(2)議員活動における生成AIの使い方/活用事例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブログ、広報での活用 <ul style="list-style-type: none"> 文書作成や要約が可能 ・ブログの必要性 <ul style="list-style-type: none"> 自身のログ(履歴や情報の記録を取ること)のため 画像生成にも有効(アニメ風も可能) <p>(3)議会質疑における生成AIの活用事例 《リサーチ、分析、壁打ち、質問案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問作成フロー <ul style="list-style-type: none"> ア 基礎資料の要約(過去の議事録、行政の計画、審議会の答申) イ 先進事例の調査(他市事例) ウ 論点の抽出(このテーマで質問する場合はどんな視点があるか) エ 仮の質問を作る(質問案や答弁案) オ 深掘する/壁打ちする ・仮の質問案を作る手順案(通園制度を例として) <ul style="list-style-type: none"> ア 制度の導入方針・目的 イ 対象者と公平性 ウ 既存施設との関係 エ 財源・人材確保 オ 効果検証・本格実施

活動成果

(4)AIを活用し、予算質疑に必要な情報を取得する方法

《GoogleのNotebookLMについて》

・ソース(資料)としてアップロードされた資料を活用することに特化⇒「信頼性」が高く、回答には必ず根拠となった資料の該当箇所が引用として表示⇒これにより情報の出所が明確となり、簡単にファクトチェックを行える

・無料プランと有料プランの比較

	無料	有料
ア ノートブックの作成数	100個	500個
イ 資料の数	50個	300個
ウ チャットの回数	50回/日	300回/日

・複雑な計画の分析や解説におすすめ

情報源(ソース)を探すソースを入れる⇒チャットでやり取り⇒結果を出力⇒レポート出力(動画/音声で解説)

生成AIを活用した予算審議について

実践編 (13:30~16:00)

【印象に残ったキーワード等】

(1)財政資料の見方

・財政状況資料集⇒総務省のHPで確認できる(確認済の情報)⇒AIを活用して財政分析を試してみる

(2)AIを活用した財政分析

・質問案の出力(資料P174)

現状分析⇒原因分析⇒将来見通し⇒財政健全化策⇒戦略的財政運営

(3)財政分析:NotebookLM編

・財政状況資料集をダウンロード⇒GoogleDriveに格納

⇒ExcelファイルをGoogleスプレッドシートに変換する

⇒NotebookLMに追加

(4)事務事業実績測定(事務事業評価)のチェックポイント

・目的、指標の名称⇒目的に即した指標設定となっているか

・数カ年の目標と実績⇒毎年達成できているか、増加傾向か減少傾向か

・今後の方向性⇒達成率が低いのに現状のままで良いのか

➡これらの項目は、前回の研修と同様

(5)質問を実現させるために《議員の本気度を伝える》

・関連計画の内容を把握する

・計画策定時であれば策定審議会を傍聴する

・計画策定に合わせて議会発言をする

・関連の勉強会に参加する、情報提供をする

・当事者の声を聴く(拾う)

・現場に行く

・繰り返し取り上げる

・所管事務調査で取り上げる

・委員会視察する

【所感等】

今回初めて、生成AIに特化した講座を受講した。

午前中の基本編では、最初に予算質疑ではなく「ブログ、広報での活用方法」の内容が多く、当初のタイトルと違うのではという不信が生まれ、さらに、自分ではブログの活用は考えていなかったため多少の戸惑いもあったが、昨年、広報紙を作成した時にはかなり苦労したため、もし今度作成する場合には、生成AIにより良い広報紙の作成が望めるのではないかと参考になった。

無料版のchatGPTは使用していたが、これまで、既存ファイルの活用まではしていなかったため、そのやり方がわかり、有効性も感じた点は良かった。

午前、午後の2講座を受講し、その場で、大きなファイルで試してみたが、無料版での限界も体験できた。

これまで、GoogleのGeminiとNotebookLMの存在は知らず、使用したことは無かったが、予算書や総合計画等のデータ量の多いファイルをAIに分析してもらうことも検討してみるきっかけとなった。特にNotebookLMは、chatGPTと比較し、多くのファイルの取り込みが可能で、信頼性が高いようであることから、是非試してみたいと感じた。無料版でどこまで可能なのかも試してみたい。

ただし、これまでの活用で思ったことは、どのように質問するか深堀していくかで、回答は違ってくるため、自分のスキルを磨き、あくまでも参考とすべきツールであることは間違いない。また、他市町の事例を検索するなど、これまでの労力が大幅に軽減されるため、使う方の力量も試されるものと思った。

今後の議員活動には、欠かせないツールの一つであり、うまく活用していきたい。

研修行程表

予算質疑特別研修

【日 時】

1泊2日 令和8年1月23日（金）～1月24日（土）

【会 場】

リファレンス西新宿大京ビル2階
東京都新宿区西新宿7丁目21-3

初日（1/23）

盛岡駅発（はやぶさ60号）	16:17
東京駅着	18:32
宿泊先 都内（政務活動費使用無し）	※前泊

2日目（1/24）

研修会場着（政務活動費使用無し）	9:40
特別講座①	10:00～12:30
特別講座②	13:30～16:00

会場から東京駅へ移動（政務活動費使用無し）

東京駅発（はやぶさ35号）	17:20
---------------	-------

盛岡駅着	19:33
------	-------

帰 宅